

令和3年10月 文書質問及び回答

1 質問者 中田豪之助議員

2 質問事項 上名寄16線大排水改修について

質問の内容・要旨	回答
<p>令和3年10月4日の大雨で(1時間で38.5mm、24時間で87.5mm)添付の写真のとおり上名寄16線大排水が氾濫し隣接する農地が湛水しました。上名寄第3公区ではたびたび公区要望として挙げているにもかかわらず改善されないとのこと。</p> <p>この10年で雨の降り方が変わり、1時間降水量が20~30mm、24時間降水量は50mmなどの短時間の大雨が出現しています。2014年に上名寄の渋谷商店前の国道が冠水した年は、「線状降水帯」という言葉が使われ始めた年でもあります。</p> <p>① 当該大排水は17,18,19線で沢水が合流し、今回のような短時間の大雨では急激に増水する。もはや行政が川として護岸整備、拡幅等の管理をするべき。</p> <p>② 当該大排水はその下流での経路も直角に曲がっている箇所が何ヶ所もありそこにも問題がある。</p> <p>③ 今回は小麦のは種前で被害が最小限だったが時期が悪いとは種或いは収穫に影響があり、農業被害が発生する。また住宅への浸水もありうる。</p> <p>以上お伺いします。</p>	<p>① 上名寄大排水路は昭和49年から昭和52年にかけて道営圃場整備事業で整備された排水路であり、維持管理は下川土地改良区が行うものとなっておりますが、現状は町が管理主体となって、土砂上げや冬季の雪割りなどを行っています。</p> <p>これまで農業用の排水路として整備、補修されてきたことから、今後も同様に排水路として適切な管理を行っていきたいと考えています。</p> <p>② 下流の直角に曲がる箇所についてですが、この直角箇所で流速が遅くなり、上流部で水が溢れるものと思われがちですが、この直角に見える箇所の柵渠板は水流に合わせたカーブが付けられており、縦断勾配もそれ流速もあることから、排水路が溢れてしまう根本的な原因とはとらえておりません。</p> <p>大雨の際、大排水路が溢れてしまうのは、大排水路は延長が長く縦断勾配が取れないと排水が停滞する箇所が出ることが根本的な原因と考えています。</p> <p>この大排水路は元々あった素掘りの排水路を整備したものですが、整備当時は、鉄道と国道の下にボックスカルバートを設置し、このボックスの中を排水が流れおりましたが、当時として鉄道と国道を止めてまでこのボックスを改修することは出来ず、既存のボックスの高さに合わざるを得なかつたことから排水路を整備した際に十分な縦断勾配を取ることができない状況でした。また、大排水路を整備した頃であれば、水田も多く、林地も多かったため自然の保水力</p>

があり、また局地的に短時間で大雨となる気象現象も少なかったことから、農地が冠水することも多くはなかったと思われますが、この数十年の間に水田が減り、林地も耕作されるなど自然の保水力は低下し、近年増加している局地的大雨の際には大排水路の水が溢れ農地が冠水してしまう被害が出るものととらえております。

必要な勾配を取るためには、国道下のボックスの改修や、排水の出口となる樋門の位置を現在より下げる必要がありますが、樋門を管理する名寄河川事務所と協議したところ、今回の大雨による治水上の問題は特に無く、河川の構造上樋門の取付位置を下げるとは難しいとの回答をいただいています。

のことから、根本的な解決に向けての改修は非常に難しいことから、今後は、水路内の土砂上げなど適切な維持管理に努めるとともに、必要に応じて部分的な改修を計画的に実施し、その経過を観察し出来るだけ被害が及ばないよう対応をしていく考えであります。

③ 近年は、局地的に短時間で大雨が降るなど、異常気象が発生していますが、このようなときは農業被害のみならず、地域で様々な被害が出ております。

急激な天候の変化に対応するのは、非常に困難を極めることではありますが、日ごろの維持管理や事前の準備について、可能な限り努めていきたいと考えています。